

第2回震災ボランティア報告書(第一次)



出発します

日程 7/12(火)～7/14(木)

派遣先 宮城県石巻市 日本共産党救援センター(石巻市南中里4-7-17、0225-22-6335)



お届け隊

米、野菜からなくなる

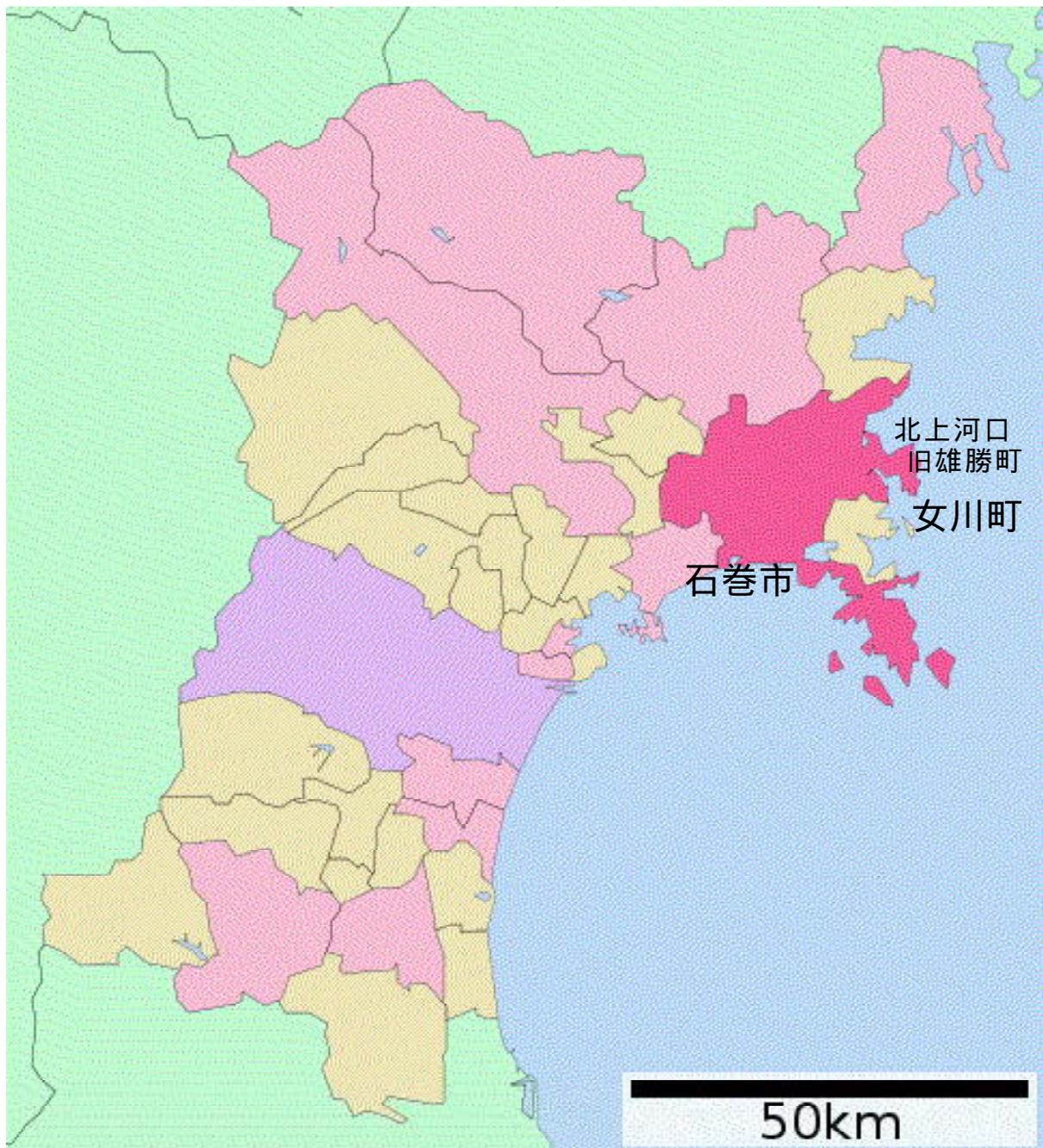
手前は生活雑貨

カメラの後ろには衣料品も



石巻市雄勝(旧雄勝町)

未だに屋根の上にはバスが



参加者 本田・宇都宮(区議)他、総勢 8 名

参加車両 中型ワゴン 1 台、軽トラック 1 台

救援物資 布団・毛布・戸棚、カセットボンベ・携帯ミシン・ミニ扇風機等生活雑貨器具、
洗剤・バスタオル、蠅取り紙等

夏野菜 ¥ 57950 の直接搬送を農民連に依頼、7/12 現地着

救援資金 緊急募金 12 万円、北区議員団の支援 3 万円、収支は別紙

宮城東部地区委員会へ 5 万円、仙台市議団へ 2 万円、経費：¥ 72917

宿泊先：大崎市田尻 ロマン館 ¥ 59680 (議員 2 名は 2 万円自費負担)

交通費：高速代は無料、ガソリン代 ¥ 33237

1 日程及びボランティア作業内容

日付	内容	備考
7/12(火)	現地への移動(東京北区 大崎)	夜勤明けの参加者が10:30、軽トラックの性能を見誤り、時速70km程度で移動したため救援センター7時が予想され、宿舎(大崎市)へ直行
7/13(水)	<p>救援物資を仕分け場所に卸し、仕分け済みの物資を積み込んで、仮設住宅と温泉施設避難所へ救援物資の届けと、要望・状況聴き取りに従事</p> <p>作業終了後、救援物資の仕分け作業に従事(未仕分け分、到着分、その日の余剰分)</p>	<p>お届け隊隊長、都委員会常駐ボランティアB氏だが、三浦市議の指示で通れりとされた北上大橋(大川小脇)は通れず、引き返したので予定の11時に到着できず。</p> <p>2カ所目に届けるべき物資が足りなくなり、現地の方の案内で、近くの避難所となっている温泉施設に届け、13時半頃帰還。</p>
7/14(木)	<p>石巻市街地、港湾地区、津波被害が軽微だった万石浦、甚大な被害の雄勝・女川、大川小学校を視察、</p> <p>仙台市青葉区折立団地の斜面造成地被害を視察。帰路に。</p>	<p>担当 共産党常駐ボランティアA氏</p> <p>案内 花木市議</p>

2 救援物資お届け・聴き取り作業について

にっこりサンパーク仮設住宅 石巻市北上町十三浜字小田 93-4.

8:30に宿舎からセンター着、泥出し部隊出発(9時作業開始に間に合わせるため、県民センターのボラ増で需要減)北区はお届け隊に

- ・到着物資の下ろし・荷揚げ、仕分け済み物資の積み込みなどで小一時間
- ・9:30頃 にっこりサンパークに向けセンター発

三浦市議も疲労気味?大川小脇の落橋した新北上大橋を右岸から左岸へ渡るルートを指示

都委員会B氏も初めてで、10:40から右岸を西に戻る。この北上川堤防上の道は、とにかく大変な被害にみんな唖然。上流の橋を渡り、今度は左岸を再び東、下流に向かう。車の墓場や、全壊の吉浜小前も通る。防潮堤の水門がちぎれて落ちている。



11:10 頃につこりサンパーク仮設に到着、



・住民の大槻さんが、人集め、次のお届け場所案内を買って出る。

大槻さんは、お嫁さんを亡くし、小学生のお孫さんを育てる 80 歳。息子さんが仮設に落選し 困っているとき県議に声をかけられ、この仮設に入居できたと感謝している。お孫さんは吉浜小学校らしい。女川で助けられたと言っていた。近くに女川という文字の入った浄水施設があった。そこまで流されたということか？白浜荘には大槻

さんのお嫁さんが働いていた。女将さんは、地震後一段落したとき、自宅が心配だろうから帰っていいと言ったために、津波にのまれてしまったと悔いを語る。もう一つの仮設に行く予定だったが、物資が不足しそうだったのと、大槻さんがあそこは魚が厳しくて、不満が多いから、やめた方がいい、近くに避難所があるからと勧めたために白浜荘に変更した。

支援物資について

- ・あつという間に米、水、野菜が無くなる。写真の奥の方
- ・生活雑貨はほぼ無くなり、衣類が残る。男の子向けの衣類を探す人がいた。

要望アンケート署名班の聴き取り事項

- ・品物選びに並んでいるとき、一段落ついたときに要望聴き取り
- ・なかなか口が開かない。何か必要なモノは？何かやってほしいことは？と水向ける。
- ・米はもっと無いの？水はもっと無いの？ここのはまずい。
- ・魚が食べたい!! (漁師町なのに魚が食べたいというのは...)
- ・蠅たたきはないの、小さな蟻も多い。何とかしてほしい。
- ・タオルはあるけど、バスタオルがほしい。
- ・雨が降ると新聞敷いて家の中に靴入れなきゃならない。何とかならないか？

(ただでさえ狭いのに、玄関がないから。工夫が必要か？TVで工夫を見た覚え)

- ・こうしてきてくれるとほんとにうれしい。みんなが顔あわせて、会話ができるから。

(普段は閉じこもって会話がないと言うことらしい。リーダー登場が難しいか?)

- ・道を早く直してほしい。通勤路だから。しょっちゅう車がパンクしてこまる。

11:50 頃次の場所めざし出発 (白浜荘(温泉施設)、避難所で店開き)

残してあった食品、避難所が引き取り。

現在 19 名が生活。当初来た人が仮設に入り、近在から 4 人、4 人、6 人、3 人の 4 家族、子どもが 11 人。今学校へ行っている。男の子の夏服がないと探していた。

12:30 頃救援センターへ向かう。再び全壊の吉浜小、原野と化したきたかみさくら公園を横目にしながら

13:20 救援センター着。



3 救援物資仕分け作業について

- ・食事休憩 30 分で荷下ろし、荷揚げ、仕分け作業に入る
- ・救援センター 2 階は、物資の集積所。着いた荷物を真ん中に積み上げてある。
- ・壁際は仕分けして、段ボールに詰め直した支援物資がうずたかく積み上げてある。
ちなみに、寝袋、毛布・夏がけ、布団、タオル・バスタオル、男の子夏服、男の子冬服、女の子夏服、女の子冬服、男物夏物、男物冬物、女夏服、女冬服、介護用品、ベビー用品、生活雑貨、文房具その他、に分類されていた。
靴は積み上げにくい。この日配布した感覚では、タオルは新品のみ。バスタオルとタオルは分量が多いが、仕分ける必要。布団は場所を取る。即お届けが必要。
- ・お届け隊が捌ききれなかったもの、未仕分けのもの、到着したてのものを段ボールから出して、仕分けし、段ボールに詰め直す作業。
- ・4 トントラック一杯の布団などが届いた。壁際に積みきれない位ある。配れないようなタオル、布団も目につく
- ・男の子向けの古着は、状態が悪くなるのでつらい。
- ・2 時間の仕分け作業、あっという間。なかなか片付けきれないほど、物資が届く。



4 現地視察について

- ・9 時頃、おおむね 3 時間コースの予定で、都委員会 A 氏の車とワゴン車に、北区 7 名、大田区 3 名と、A 氏帰京後の案内役となる民青都委員会の女性を乗せ、出発
(コース概略) まず日和山公園から、甚大な被害を受けた港湾地区、湾口が狭く湾が広がっているために被害が軽微だった万石浦、牡鹿半島を横切って、甚大な被害を受けた女川町立病院・女川駅付近、観光バスがまだ乗っかっている雄勝の中心部、峠を越して、旧川北町の北上川下流域へ抜けて新北上大橋の袂にある大川小学校、ここで 12 時半となり、救援センターに帰る

救援センター入り口は約 1 m の高さで冠水。向かいのパチンコ屋は閉鎖だが、その隣の大型の寿司屋は解体し更地。外資系チェーン店は撤退、資本力のない大型店も撤退、零細企業は再建のめど立たず、産業中枢が全滅。神戸では住民運動でつぶした計画が次々復活した。今宮城県知事は財界の青写真に沿った復興計画づくりに躍起。日本製紙が操業停止のため、小池ビラは間に合わなかった。石巻線(石巻 女川)はストップ。旧北上側で津波の威力は落ち、被害は減るが、それでも冠水した地域はそれより内陸部に広がった。

市街地の残っているお宅で 2 階で営業するつもりで、泥出しを始めたら、1 階の床下で遺体を発見。津波はものすごい威力。車が流れる凶器になる。

- ・震災後、山坂が多く敬遠されていた高台が人気物件になった。車のあるお金持ちだけが住むまちから大きく変貌。





(上の写真) 日和山公園より石巻市街を一望。あまりの惨状に一樣に声をのむ。立派な石巻市立病院が見える。13日救援センターに到着したストレッチャーを寄付したところ。今は、ほとんど土台だけ残った野原と、鉄筋コンクリートのがれきばかり。



南下して港湾部を目指す。匂う。倉庫や加工場が廃墟に。鯨大和煮の広告つきタンクが横転。東に転じて、海沿いを女川方面に走る。途中、A氏曰く「高校の隣のがれき置き場になるなど、今後の復興や生活は難問が一杯。庄司議員は湊小学校の避難所責任者だが、がれき撤去がなかなか進まない。自治体負担分も相当額にのぼる。今回は車や船舶も含め、家屋も持ち主の同意を得ることなどに困難が伴う。最終処分場ともなると相当な問題。阪神の時にはやくざが下請けに入り込んだが(インターネット情報: 宮城県警は重機を法外な値段でリースしたこともあるとして警戒を呼びかけている) 利権がらみ、多額の予算が必要な大問題。」



- ・ A氏曰く、「直接避難民の意見を集めているのは共産党ぐらい」商工会議所が中央委員会に訪問したときの話、漁協の話など、行政への不満、共産党への信頼は山ほど出てきている。
- ・ 万石浦は、海への開放部が狭く湾が膨らんでいるため、津波の威力がそがれて、被害が軽微です。牡蠣の稚貝の養殖はここでやっていたので、周辺漁協は助かった。ただし、地盤沈下はある。大潮で冠水する。道路の嵩上げは進んでいるが、そのために、家屋の敷地は低くなり、土嚢を積むなど、道路に対する家の堤防が必要。万石浦には石巻で唯一残った笹か

まの工場がある・これがうまいとのこと。



万石浦を通り過ぎ、牡鹿半島の根元の丘を東に超えると女川町。牡鹿半島東岸では、女川町だけが残り、北側の雄勝町などは石巻市に統合された。女川では津波の威力のものすごさを実感。高台にある女川町立病院の地面（HPでは標高 16 m の 1 階部分も津波で破壊を受けている）と同じ高さのビルが基礎杭ごと横倒しになっている。A 氏曰く「屋上に車が乗っていた」とのこと。まさに女川では、「津波が丘を超えた。」（左写真）

- ・女川駅の駅舎も跡形なし。駅だと言われてようやく、ホームや駅舎と思いがたる状況。（右写真）
- ・環境放射線測定に欠かせないモニタリングポストの一つ、東北電力の原子力センターや保安員の原子力防災センターも壊滅。倉庫の上にはまだ車が 1 台取り残されていた。
- ・女川原発では、東北電力が、日本共産党の言うことを聞いて、一つだけ鉄塔を高台に造り、引き波も 10 m に想定を変え、冷却動力も対策を取った。東電と同じだと危なかった。女川は、原発のおかげでお金があり、いち早く復興計画を立てた。しかし…。A 氏曰く、8 月の選挙では、党への期待も広がっており、不戦敗というわけに行かない。

ここから、牡鹿半島の北側、太平洋に面した東岸を北へ向かって、石巻市に統合された雄勝へ入る。ここも丘を超える勢い。大型バスが屋上に乗っている。もともとは 3 台乗っていたとのこと。（表紙写真）



大川小学校

（2F の四角い所への）渡り廊下。曲がり方が!!



12:00 頃、雄勝小の脇の丘を北へ抜けると北上川にぶつかる。右に曲がれば、前日来た新北上大橋、橋のたもとを川沿いに降りたところが有名な大川小学校。献花台があり、堤防下のすり鉢状の校地へ入る。12 時過ぎだが作業をやめていない重機が 1 台。ひょっとすると、行方不明のお子さんを捜すために、重機オペレーターの免許を取ったお母さんが運転しているのか。岐阜県警の機動隊員も作業に従事しているが、彼らは昼食休憩を取っていた。がれきの山と化した校庭から校舎脇に入る。モダンな校舎の影に見えてきたのは、引き波だと思われるものすごい力でねじ曲げられた、事務棟への渡り廊下。裏の斜面を開削した崖は、擁壁で土留めしてあり、その上にはあがれないように鉄条網。その擁壁の 5 m 上くらいに、植栽したばかりの若木に津波の爪痕。(上の写真) 少し左に外れた開削していない崖は、ちょっと遠いが、NHK で証言した生き残った男の子がとりついて引っかけた雑木林。まだ子どもたちの霊がいるという人も。校長先生は自殺だったとか。その先の長面などの海縁は重機が入らず、捜索も困難なのは、道路状態などからも実感。北上川右岸から西に向かい、旧北上側も渡って救援センターに 13 時頃到着

5 仙台市青葉区折立団地の斜面造成地の被害状況視察



13 時半までに食事を済ませ、仙台へ向け出発。

事故で南三陸道閉鎖、一つ手前で高速降り、市役所へ。15:40 花木市議とドッキング

16:00 すぎに折立団地 4 丁目の現場に到着。

- ・谷埋め盛り土が、地山との接合面で3 m以上滑っているとのこと。



地盤が右へ滑ったため、柱の下の方が右へずれている

- ・道路と家が2 m隙間が空いた家



・道路が2 m曲がった場所もあり。
写真奥は道路が左にずれ
手前は道路はそのまま家が左にずれ

- ・擁壁は、山止めの用をなしていない模様。下をのぞいたら、擁壁は造成された地面に乗っかっているだけ。隙間も空いていた。写真ではわかりにくいですが、擁壁は本田側に50センチ以上曲がっている。



- ・造成 40 年ということで、改正宅造法の基準作りが求められる。1000 戸ほどの戸建て団地で、50 戸がこの地滑りのためほぼ全壊状況。



- ・測定装置をつけて、その後の地割れの状況を監視し、さらに滑らないかチェックしている状況を監視している。



ベタ基礎でしっかり工事しているため、滑って傾いただけのお宅は、一部損壊扱い。傾斜を見て大規模半壊にする基準は作ったが、評価判定調査が追いつかないため、未だに改善なし

県の住宅供給公社が造成。県営住宅部分は、擁壁も修繕済み。戸建て造成地は知らん顔。仙台市は 8/23 投票日とのこと 14 時 40 分頃出発。帰路につく。

ここだと地割れ 2 m 以上



《 5 》 活動日程

- 07/12 (火) 09:00 地区委員会に7名集合、荷物積み込み
10:00 地区委員会出発
10:32 田端運転所で夜勤明け要員1名乗車、概要確認
10:40 田端運転所発車
10:50 王子北IC～首都高～東北道～三陸道～救援センター 16時目指
12:00 頃昼食休憩(佐野SA)シートのかぶせ直し
14:40 頃鏡石で休憩
15:50 吾妻SSで給油
16:00 頃福島西付近で救援センターに電話、宿直行に変更
16:半頃村田付近で土砂降り
16:54 雨上がる
17:03 和泉PAで休憩
18:00 頃宿に到着 雨露が心配のため、布団等はワゴン車に積み替え
19:00 頃センターと打合せ、温泉施設休日で風呂待ち、夕食買い出し
20:00 頃朝食を6:45に早めてもらい、翌日打合せ、夕食交流会
- 07/13 (水) 06:00 起床、4:30には阿部さんが散歩へ、5:30頃から各自動き始め
06:00 物資積み直し、ラジオ体操、朝食
07:00 出発 石巻センターへ
07:25 給油
08:20 頃センター付近で道に迷う、石巻工業高校脇で小中の送迎バス
08:31 センター向かい側、車回して物資おろし、古い布団持ち帰りに
09:00 打合せ(部隊分け、お届け隊に組み込み、積み込み)
09:50 センター出発、
10:30 頃北上大橋が渡れず戻って、別ルートへ
11:10 頃ニコニコサンパーク仮設に到着、物資おろして「店開き」
12:00 頃二カ所目の行き先変更し、白浜荘(避難所)へ
12:10 頃白浜荘で店開き
12:40 頃白浜荘発
13:20 頃救援センター到着、残り物資2Fに揚げて隣の吉野家で昼食
14:00 頃到着物資の荷下ろし、未整理物資と到着物資の仕分け作業
16:00 頃作業終了し、感想文を書いて、宿舎帰還
17:30 頃レストランでの食事をやめ、交流会の酒類を会ながら到着
18:00 頃から付属の温泉で入浴、19時頃から交流会
21:00 頃再入浴、寝る支度、21時消灯
- 07/14 (木) 06:00 起床、朝食、精算・帰り支度
07:07 支援センターに出発
08:30 支援センター到着、到着荷物下ろしを手伝う
09:30 オリエンテーションに出発
12:30 支援センター到着、吉野家とうどん屋で昼食
13:30 支援センター出発、事故渋滞で仙台市役所 15:30 すぎ花木議員

- 16:00 折立 4 丁目到着、現地見学
- 16:40 東北道に乗る
- 16:50 菅生 S S で給油
- 20:30 佐野 S A で休憩
- 21:15 佐野発 蓮田で給油
- 22:30 頃北地区委員会到着

